

1月～2月／植林後の経過と護岸の強化

昨年度植林したマングローブは、海寄りに植えた苗の一部が高波にさらわれたものの、残った苗はしっかりと根付いています。

今年は特に高波が多く、養殖場ではますます侵食被害が拡大しています。マングローブ植林地をしっかりと整備するため、日本の専門家にも指導いただき、より強固な古タイヤの防波堤を築きます。護岸が整備されれば、いよいよ今年度の植林が始まります。



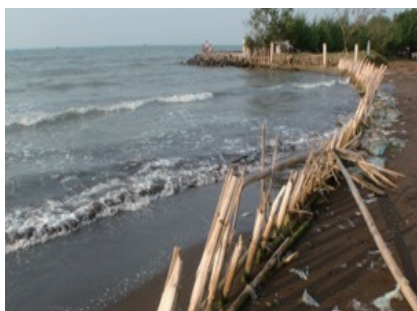
養殖場周りの植林の様子



護岸強化に協力する日本の専門家と
コミュニティの人々

7月／プカロンガン市の浸水問題

これまでの活動地であるスマラン市から車で 2 時間離れたプカロンガン市でも、浸食・浸水の被害が深刻化しています。ここ数年で海水の浸水地域が拡大し、多くの養殖場や田畑は使えなくなり、道路や集落周辺にまで浸水が広がっています。今後、スマラン市での経験を活かしてプカロンガン市でも住民主体のマングローブ植林を支援することになりました。



プカロンガン市の海岸



浸水した道路

8月／保全政策や普及の促進



保全政策の議論



市民による体験ツアー

スマラン市では、沿岸部の保全を促進するため、行政や研究者を交えて保全政策の議論の場を定期的に持ち、マングローブ保全区の設置を目指しています。また、より多くの市民からの理解と協力を得るため、視察ツアーや植林体験を実施しています。

活動報告



10月／エコツアーでの植林



日本人ツアー客による植林



エコツアーで植林した苗木

日本からのエコツアーを受け入れ、植林や苗床整備を体験してもらいました。コミュニティの丁寧な指導の下、合計100本の苗木が植えられました。外国人による保全活動への参加は、地元の市議員やメディアにも注目され、活動地の保全への関心を高めました。

11月／植林管理技術の普及



カラガニヤール村で指導するタバック村の住民



カラガニヤール村での研修

2009年から植林活動を続けてきたタバック村の住民たちが指導者となり、隣村であるカラガニヤール村への植林管理技術の移転を行いました。

12月／プカロンガン市の行政との連携構築



プカロンガン市環境局を訪問



新しく設置した苗床の視察

新しい植林地における行政との良好な連携体制を築くために、担当者との話し合いや植林地、苗床に同行し、課題や目的を共有しました。